

平成27年度 第3回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 平成27年8月31日 午後2時00分～5時00分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南52会議室

【出席者】 〈委員〉

尾碕 眞 [愛知学院大学商学部商学科教授 博士]
服部 正雄 [元トヨタ生活協同組合 特別顧問]
浅井 良隆 [コンサルティングオフィス アット・ドリーム]
河原 郁子 [とよた下町おかみさん会 平成24年度会長]
澤田 恵美子 [豊田市消費者グループ連絡会会長]
松永 郁也 [豊田商工会議所 常議員]

〈事務局〉

原田 裕保 [豊田市産業部長]
寺澤 好之 [豊田市産業部副部長]
三浦 浩 [豊田市産業部商業観光課長]
長江 洋一 [豊田市商業観光課副主幹]
鈴木 啓介 [豊田市商業観光課担当長]
寫 和典 [豊田市産業部商業観光課主査]
成瀬 愛 [豊田市産業部商業観光課主事]

【欠席者】 大橋 宏 [豊田信用金庫 部長 中小企業診断士]
杉田 雅子 [株式会社 杉田組 ブルーベリー事業部取締役]

【傍聴者】 なし

【次 第】

開 会

- 1 部長あいさつ
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 報告事項
商業基礎調査中間報告について
- 5 その他

6 連絡事項

平成27年度 商業振興委員会開催予定（案）

【会議録（要約）】

1 部長あいさつ

産業部長よりあいさつ

2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて

事務局より説明

3 委員長あいさつ

委員長よりあいさつ

4 報告事項

商業基礎調査中間報告について
事務局より資料の説明

【主な質疑応答】

委員

店舗は大きさではなく、商品数や、品揃えにより支持される。既存店舗の品揃えはどうか。また、その店舗の役割はどうなっていくのか。既存店舗のことについては一切触れられていない。

近隣の大型店の進出で取り巻く商業環境が激変する。将来を考えると、これらを意識しながらの報告となるのか。

事務局

中心市街地の大型店の売上は横ばいなりに伸びてきている。面積当たりの売上は他市と比べても高いが、消費の市外流出が多い点については、市民ニーズには対応できていないと言える。よって、都市計画部門等と一緒に進めているが、商業側での不足点を示しつつ、地域分析も併せて事業展開していきたい。

業者

具体的に立地が決まっている店舗への流出には拍車がかかる。小売吸引力の目標をどこにするのかは議論がいる。

委員

消費の市外流出はその通りである。しかし、大型店の立地により、商店街の店が無くなってしまふ影響もある。地域コミュニティの核として、地域の人が安心して住めることが商店街の使命でもある。

委員

アンケート結果は従来のものとほぼ同じ。市民ニーズの変化もあまりない。活性化プランでは、中心市街地に大型店を集中させ、地域にはコミュニティを創るという考え方であったが、今回の方向性はその考え方と反するよう思えるため違和感がある。

委員

高橋地区は住みやすい。消費者としては、歩いて買い物ができる範囲に医療施設や商業施設などが揃ってほしい。

委員

地元で買いたくても買えないものがいくつかある。しかし、個店の品揃えには限界があるので、市の施策により店舗を誘導することも必要だと思う。

委員

ファッションなど買回品のショッピングセンターはどこかに集約して、最寄り品は地域の店で購入できるようなまちづくりがなされていくと良い。

委員

吸引力1を超えることを目指すとのことであるが、生活者の利便性や、何をどこに配置するかについての指摘が無い。中心市街地の買回品の魅力をどうあげるのか。吸引力を1にするための新しい戦略を示してほしい。

生活者目線でまちづくりとの連動が必要。大型店の業種構成をどうするのが重要。市民ニーズを把握できているのか。

車で10分の距離で買い物ができる店舗が欲しいというのは全国的な傾向である。豊田市独自の傾向は何か。

所得の高い人の構成はどのようになっているか、何を欲しているのか、男性・女性、年齢でも違う。どのような人を満足させるのかというターゲットが重要。

また、大型店が撤退したらどうするのか。まちづくりの観点が必要。消費者は車があるので、魅力が少ないところへは行かなくなる。

事務局

商業振興プランの考え方を否定するものではない。区画整理事業の中で商業施設の要望があり、それに対してのご意見を伺いたかった。南部地区でもある程度の規模の商店が撤退している中で、適度な店が必要だという意見が出ている。今回はご意見をいただくのに判断材料が少なすぎたと感じている。

委員

店舗の吸引力や商圈がわからないと判断がつかない。また、都心部でも買い物弱者がいるため、活性化プランではソーシャルビジネスを強化していこうとしていた。その結びつきについても検討すべき。

事務局

商圈を含めた分析は行っている。また、商業活性化プランの中でも、「競争力のある中心市街地の構築」と位置づけている。これは、郊外のモールの進出に対応すべきという考えのもとであり、中心市街地一体でモールの機能を果たすテナントミックスの計画を立て、実施中である。

中心市街地に影響を与えるものが北部に来ると市全体への影響が大きいので、最寄品を中心とした店舗が相応しいと考える。

委員

アンケート結果を分析して、男性、女性、年齢分布等のクロス集計結果を教えてください。

委員

大型商業施設の立地により、市内の移動が増えるだけの結果に終わり、結果として、実施してきた中心市街地の活性化が無駄にはならないかと危惧する。もう少し背景や考え方を教えてほしい。

地域によっては、大型店で買い物したい世代と2,000~3,000㎡位の店舗の方がいいという世代が出てきている。

街の発展に合わせてハード整備を行ったが、結局廃止することになる、ということにならないための打開策を説明してほしい。

委員

地域の人の意見を良く聞いて考えないと、店舗の評判が下がる。ファッション系の吸引力が弱いとあるが、一人あたりの売場面積を他市と比較すると、業種部分の課題の参考になると思う。

委員

日常の買物は近隣で行えるように、それに合う市の方針を作してほしい。また、そのための交通機関の整備も必要。

委員

1つの店で何でも揃うような大型店ができると消費者にも欲が出る。車で通える店を最優先してしまうと、豊田市全体のまちづくりを考えたときに少し怖い。

委員

豊田市駅の近くの商業施設が特徴を出し、一帯が大型店舗のようになると良い。商品の品揃えももう少し豊富にして皆が来てもらえるような施設にして欲しい。